

民族薬物資料館

Museum of Materia Medica

館長	小松 かつ子	Curator	Katsuko Komatsu (Ph.D.)
特命准教授	伏見 裕利	Associate Professor	Hirotoshi Fushimi (Ph.D.)
技術補佐員	出口 鳴美	Research Assistant	Narumi Deguchi
技術補佐員	青山 富美子	Research Assistant	Fumiko Aoyama

◇目的

世界の諸民族の伝統薬物を蒐集、保存、展示するとともに、それらの学術情報を収載したデータベースを構築し、伝統薬物に関する共同研究を推進する。

◇活動概要

I) 民族薬物データベース（ETHMEDmmm）の構築

当資料館には、和漢薬、アーユルヴェーダ生薬、ユナニー生薬、タイ生薬、インドネシア生薬、チベット生薬など約 27,000 点の生薬標本が保存されている。これらに関するデータベースを順次開発し、生薬標本情報並びに学術情報を整理し、構築している。本年は、動物および鉱物由来チベット生薬 62 種類（約 120 点）の各種学術情報をチベット生薬データベースへ登録し、校正して、Web 上で公開するまでに完成させた。また、タイの植物 88 種類について DNA 配列情報をタイ生薬データベースへ登録した。

II) 薬草古典データベースの構築

中国薬草古典「証類本草」データベース：『証類本草』収載品で、『傷寒論』中の処方に配合される生薬を中心に 11 項目の翻訳を進め、生薬 5 項目を校正し、データベースに登録した。

III) 「民族薬物資料館」完成記念式

6 月 15 日に和漢医薬学総合研究所の「共同利用・共同研究拠点」認定記念式に続いて、民族薬物研究センター「民族薬物資料館」完成記念式を開催し、民族薬物資料館の施設案内を行った。3 階建ての民族薬物資料館は増改築により従来の 2 倍となる延べ床面積約 400 平方メートルとなり、漢方医学・中国医学で使用する和漢薬、日本の民間薬などを展示する一般展示室（1）、インド医学（アーユル・ヴェーダ）などで使用する生薬を展示する一般展示室（2）、および研究所の研究成果を展示、発表する特別展示室を中心に解説を行った。来館者は 81 名。

IV) 一般公開

第 12 回民族薬物資料館一般公開：平成 22 年 6 月 28 日～7 月 2 日（5 日間、午前 10 時～午後 4 時）
「民族薬物資料館」完成記念式（6 月 15 日）に引き続き、一般公開を行った。

1 日 2 回各 1 時間、「新民族薬物資料館」完成に伴い、収蔵する生薬標本のほか、生薬製剤、富山の配置薬業の歴史を紹介する資料、本草書などの解説を中心として館内を案内した。来館者は 177 名。

第13回民族薬物資料館一般公開：平成22年9月4日～5日（2日間、午前10時～午後4時）

1日2回各1時間、正倉院薬物と同類の生薬（訶梨勒、麝香、龍骨など）の解説を中心として館内を案内した。なお本学薬学部附属薬用植物園の一般公開と同日に開催した。来館者は54名。

第14回民族薬物資料館一般公開：平成22年10月30日（1日間、午前10時～午後4時）

1日3回各1時間、香りのする生薬（桂皮、丁子、生姜など）の解説を中心として館内を案内した。さらに富山大学和漢医薬学総合研究所漢方診断学分野の柴原直利教授による講演会「漢方診断の体験、一气血水病態一」を開催した。来館者は126名、講演会参加者は66名。この一般公開は同研究所生薬資源科学分野の全面的な協力の下に行われた。

◇原著論文

- 1) Cao H. Sasaki Y. Fushimi H. and Komatsu K.: Authentication of *Curcuma* species (Zingiberaceae) based on nuclear 18S rDNA and plastid *trnK* sequences. *Yao Xue Xue Bao.*, 45: 926-933, 2010.

Abstract: *Curcuma* drugs have been used discriminately for invigorating blood circulation, promoting digestion, and as a cholagogic in China. However, there is confusion about the drug's botanical origins and clinical uses because of morphological similarity of *Curcuma* plants and drugs. Comparative sequencing of the 18S rRNA gene in nuclear ribosomal DNA (rDNA) and *trnK* gene in chloroplast DNA (cpDNA) was carried out in order to examine interspecies phylogeny and to identify ultimately *Curcuma* species. A total of a hundred of accessions of eighteen species were analyzed. This resulted in an aligned matrix of 1810 bp for 18S rDNA and 2 800 bp for *trnK*. 18S rDNA sequence divergence within the ingroup ranged from 0-0.05%, *trnK* ranged from 0-0.19%. One base transversion-substituted site (from cytosine to thymine) was observed from the upstream of 18S rDNA at nucleotide position 234 in *C. kwangsiensis* and Japanese population of *C. zedoaria* which have separated genetic distance to other *Curcuma* taxa. Two noncoding regions embedded in *trnK* intron showed higher variability, including nucleotide substitutions, repeat insertion and deletions. Based on consensus of relationship, eighteen major lineages within *Curcuma* are recognized at the species level. The results suggest that *Curcuma* is monophyletic with 100% bootstrap support and sister to the genera *Hedychium* and *Zingiber*. The *trnK* sequences showed considerable variations between *Curcuma* species and thus were revealed as a promising candidate for barcoding of *Curcuma* species, which provide valuable characters for inferring relationship within species but are insufficient to resolve relationships among closely related taxa.

◇総 説

- 1) 小松かつ子、伏見裕利：目で見る漢方薬・生薬（23）生姜. 医薬ジャーナル, 46 (11), 5-12, 2010.

◇学会報告

- 1) Fushimi H. : The present situation of the development of Bioresources in Japan. The International Forum of Bio-resources and Bio- Industry, Yuxi-Yunnan, 2010,12/14-15, China.
- 2) 小松かつ子、伏見裕利、民族薬物データベース作成委員会、証類本草データベース作成委員会：民族薬物資料館ポスター. 国立大学博物館等協議会2010年大会（第5回博物学会），2010, 6/24-25, 仙台.

- 3) 安食菜穂子, 細江潤子, 伏見裕利, 小松かつ子, 蔡少青, 池崎秀和, 御影雅幸, 川原信夫, 合田幸広: 味認識用脂質膜センサによる生薬「カッセキ」の日本及び中国市場品の識別に関する検討. 日本薬学会第 131 年会, 2011, 3/28-31, 静岡.
- 4) 北村亮, 安東嗣修, 伏見裕利, 小松かつ子, 柴原直利, 倉石泰: マウスにおける抗癌薬誘発疼痛に対する牛車腎気丸と関連方剤の抑制効果. 日本薬学会第 131 年会, 2011, 3/28-31, 静岡.

◇その他

- 1) 小松かつ子, 伏見裕利: 富山大学和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館の増改築. MUSEO ACADEMIAE 第 12 号, p.5-6, 2010.
- 2) 伏見裕利: 生薬エキスの防虫効果に関する研究 1. 平成 22 年度富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー, 2010, 6/8, 富山.
- 3) 伏見裕利: 新しくなった民族薬物資料館の紹介. 富山薬窓会富山支部会, 2010, 6/19, 富山.
- 4) 伏見裕利: 体験実習「桂枝茯苓丸をつくってみよう」. 第 15 回和漢医薬学総合研究所夏期セミナー, 2010, 8/23-25, 富山.
- 5) 伏見裕利: 民族薬物資料館の紹介と生薬の変遷. 日本東洋医学会関東甲信越支部新潟県部会, 2010, 9/12, 新潟.
- 6) 伏見裕利: 2010 堤川国際韓方バイオエキスポ, 展示協力. 2010, 9/16-10/16, 韓国.
- 7) 小松かつ子, 伏見裕利: 富山大学和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館の紹介. 富山市民大学講座, 2010, 10/15, 富山.
- 8) 伏見裕利: 民族薬物資料館. Tom's Press, p.11, 2010, 10/15, 富山.
- 9) 伏見裕利: 目で見る漢方薬・生薬 (22) 桃仁での写真協力. 医薬ジャーナル, 46, 5-14, 2010.
- 10) 伏見裕利: 2010 堤川国際韓方バイオエキスポに参加して. 月刊和漢薬, 691, 4-5, 2010.
- 11) 伏見裕利: 中国雲南省玉溪市における生物資源と生物産業発展に関する国際検討会に参加して. 月刊和漢薬, 694, 11, 2011.

◇共同研究

国内

- 1) 川原信夫: 独立行政法人医薬基盤研究所, 「日本薬局方の試験法に関する研究」: 「各種漢方処方に配合される鉱物生薬カッセキの性状, 確認試験等に関する検討」, 2007~

◇研究費取得状況

- 1) 平成 22 年度厚生労働省科学研究費補助金, 地域医療基盤開発推進研究事業 (分担: 伏見裕利) 「漢方処方配合生薬の安定供給及び持続的品質保持における国際標準化に関する研究」 100 万.
- 2) 独立行政法人科学技術振興機構 (分担: 伏見裕利) 「杜仲葉を用いた高機能食品の研究開発」 39 万.

◇記録

I) 見学者 (2010年4月27日～2011年3月28日) *

来館者総数： 1,195名（日本人 1,042名， 外国人 153名）

案内総回数： 158回（日本人 126回， 外国人 32回）

外国人の国名（人数）：中国，韓国(各 44)，モンゴル(22)，タイ(20)，米国(7)，ブラジル(4)，
台湾，ドイツ，ミャンマー，ルーマニア(各 2)，バングラデシュ，
ベトナム，ペルー，キューバ(各 1)

主な来館者の所属先

【海外】中国（麗珠医薬グループ，中医薬局管理局，山峡大学，澳門大学，北京大学など），
韓国（金羅南道韓方産業振興院，ソウル大学など），モンゴル（WHO，モンゴル医師研修
団），タイ（保健省，伝統代替医療開発局など），米国（マレー州立大学）

【国内】文部科学省，国立医薬品食品衛生研究所，医薬基盤研究所，国公私立大学 30 校，
富山県立富山いずみ高校，石川県立田鶴浜高校，富山市民大学講座，他

*資料館増改築工事終了により，6月15日より正式に開館

II) 民族薬物データベース (2010年4月1日～2011年3月28日)

ア ク セ ス 数： 35,644 件

専門検索アクセス数： 1,093 件（日本語 802 件，英語 291 件）

専門検索登録者数： 58 名（日本語 50 名，英語 8 名）（全 1,371 名）

一般検索アクセス数： 1,185 件（日本語 1,069 件，英語 290 件）

III) 証類本草データベース (2010年4月1日～2011年3月28日)

ア ク セ ス 数： 1,020 件（試用版 322 件）

専門検索登録者数： 41 名（全 152 名）